「経済的支配からの解放」イザヤ書 23 章 1-18 節

2023.6.25　礼拝

序論）

今日の箇所で、イザヤ書 13 章から語ってきたイスラエルの周辺諸国に対する預言はとりあえず一旦おしまいとなります。神様はアッシリアを通して、今まで神様の前に傲慢になり、【主】に逆らってきたイスラエル周辺諸国を裁くということを預言してきました。今日はそのイスラエル周辺諸国に対する裁きの預言の最後、フェニキアに対する預言となります。

フェニキアの繁栄）

フェニキアというのはこの地図でいうところのツロとかシドンがある地中海沿いに繁栄した国です。このフェニキアという国は、アッシリアやバビロンとは対照的で、アッシリアやバビロンは軍事力によって栄えていましたが、このフェニキアという国は、経済力によって栄えていた国です。

どれぐらいこの国が栄えていたかというと、１節を読んでみましょう。

23:1 ツロについての宣告。タルシシュの船よ、泣き叫べ。ツロは荒らされて家もなく、そこには入れない。キティムの地から、それは彼らに示される。

フェニキアにはツロとシドンという２大海運商業都市（図）がありました。このツロとシドンという２つの町は、非常に良い港を持っていてこの港に来た諸外国の商品を右から左に流すだけで彼らはお金儲けをし、その経済力は遠方の町さえも経済的に支配するぐらいの影響力を持っていました。

だから、１節にあるタッルシシュという町は、遠くスペインの南側にある町でしたけど、そのタルシシュはツロやシドンで商売をすることで儲けていたので、ある意味で経済的にこのフェニキアの町に支配されているような状態でした。

そして、このフェニキアの経済支配はタルシシュだけではなく、この地中海に浮かんでいるこの島。１節ではキティムといわれていますが、今ではキプロス島と呼ばれる島にも及んでいました。

だから、この一節のことば「**タルシシュの船よ、泣き叫べ。ツロは荒らされて家もなく、そこには入れない。キティムの地から、それは彼らに示される。**」というのはどうゆうことかというと、ツロで商売をするためにタルシシュから来た船が、一度、中継地点としてキプロス島によります。そして、そのキプロス島・・・つまりキティムの地で、ツロが神様によって裁かれて滅ぼされてしまったニュースを聞い

て、自分たちの商売相手がいなくなって泣き叫ばなければいけないのだよ。っと、そうゆうことを行っているわけです。

しかも、このフェニキアの貿易はタルシシュやキプロスだけではなくって、南の大国エジプトとのやり取りもあったようです。３節

23:3 大海原で、シホルの穀物、ナイルの刈り入れがおまえの収穫となり、おまえは諸国の商いの場となった。

ここでいう「シホル」というのはエジプトのナイル川の支流のことで、ナイルの刈り入れというのは、その言葉の通りエジプトのナイル川近辺でとれた食物の収穫のことです。フェニキアは西の果てタルシシュから、南の大国エジプトにいたるまで多くの国とやり取りをする貿易拠点となって非常に経済的に栄えていたわけです。
どれくらい栄えていたかというと、４節にフェニキアの大都市シドンの言葉が書かれているので読んでみましょう。

23:4 「シドンよ、恥を見よ」と海が言う。海の砦がこう言っている。「私は産みの苦しみをせず、子を産まず、若い男を育てず、若い女を養ったこともない。」

子どもを産んで養い育てるということはとっても大きなことですよね。それはとっても喜ばしいことであるのと同時に、大変な苦労が伴うものです。フェニキアの海沿いの町々は、「自分たちはそんな子どもを育てる苦労も苦労と思わないほど、豊かに裕福に歩んできた」といっているのです。ただ商品を右から左に流しているだけで、本来は苦労するようなことも、苦労することなく、彼らは楽しく過ごしてきたのです。

フェニキアの繁栄はそれだけではありません。**７節には「その起こりは古く」**とありますが、フェニキアの町の一つであるツロという町は、紀元前２５００年ぐらいからある。古い歴史を誇る町でもありました。さらに８節をみると

23:8 だれが、王冠を戴くツロに対してこれを図ったのか。その商人は君主たちで、その貿易商は地で最も尊ばれていたのに。

これはどうゆうことかというと、このフェニキアのツロという町は長い歴史があ

るだけではなくって、周辺諸国の王様が戴冠するとき、つまり、王様が王様になるときに、その王様の頭に王冠を授けるぐらいの強い影響力を持っていて、フェニキアの商人たちは、一人ひとりが君主・・・つまり、王様だといわれるぐらい支配力をもっていたわけです。

今だって、大企業や大財閥のリーダーたちは、国のリーダーたちよりも権力を持っていたりします。それと同じ用な力が非常に豊かな経済力をもっているフェニキアにはあったのです。

【主】の裁きのご計画）

でも、そのように広い地域に影響力をもち、王様を任命することができるぐらいの支配力があったフェニキア、しかも長い歴史の中で諸外国に一度も滅ぼされることがなかったフェニキアが、裁かれ滅ぼされるのだと。この預言は語っています。なぜでしょうか？

フェニキアよりも力がある万軍の【主】が、このおごり高ぶったフェニキアを裁くとお決めになったからです。9 節を読みましょう。

23:9 万軍の【主】がそれを図り、すべての麗しい誇りを汚して、地で最も尊ばれている者をみな卑しめられた。

みなさん、私達がどんなに経済的な豊かさを持っていたとしても、そして、その経済的な力を背景に他の国さえも支配するような力を持っていたとしても、神様のそのご計画一つで、その誇りは汚され、その尊厳はあっというまに卑しめられてしまうのです。だから、私達がこの世で財産を持っていたとしても、そのことを誇ったり、それによって他の人を見下したりするのは愚かなことなのです。

今でこそ日本は厳しい不景気の中にありますが、第一の経済大国だと言われていた時代は、このフェニキアのような誇りを持ち、高ぶりをもっていたのではないでしょうか。今でも、一部の裕福層の人たちは同じような高ぶりの中にあるのかもしれません。でも、この世の経済力を背景にした誇りや影響力や力というのは、神様の御心一つで、汚され、卑しめられ、へりくだらされるのです。

私達はこのフェニキアに対する神様の裁きから、神様の一つのみ心を悟ることができます。それは例え、経済的な豊かさをもっていたとしても高ぶってはいけないということです。そして、そのような高ぶりの中にある者を【主】は低くされるということです。ある意味で今の日本が、経済的に苦しいのはそのような【主】のみ心の中にあるのかもしれません。

神様のご計画のもう一つの意図　被支配者の解放）

　このフェニキアに対する神様のご計画は、彼らを裁くという計画であったのと同時に、後２つ神様の意図が入っていました。それは何かというと、一つがこの経済的に高ぶっていたフェニキアによって支配されていた人たちの解放です。１０節、１１節を読んでみましょう。

23:10 娘タルシシュよ、ナイル川のように自分の国にあふれよ。もうこれを制する者はいない。
23:11 主は御手を海の上に伸ばし、王国を震わせた。【主】はカナンについて命令を下し、その砦を滅ぼし尽くした。

　先程もいいましたけえども、遠くスペインの南側にあったタルシシュという町は、それだけ離れたところにあった町なのにもかかわらず、経済的にフェニキアのツロやシドンに支配されているような状態でした。
　でも、神様がフェニキアを裁かれるので彼らはその支配から解放されるのです。だから、**10 節のみことばは**「ナイル川が反乱するように、お前たちは自由にどこにでもいけ！。お前たちを制する者、支配する者はもういないのだから。」っと、そう神様はタルシシュの人たちにいわれているのです。

　みなさん、経済力の恐ろしいところは、遠く離れた地にいる人たちさえも、武器を使わないで支配することができるということです。だから、今、中国は発展途上国にこれでもか資金を投入して、その国が自分たちのいいなりになるようにしようとしています。岸田さんも自国民をほっといて色々な国にお金をばらまいて影響力をたかめようとしたりしていますけども。お金の力というのはそうやって人を依存させ支配することができる力があるのです。
　でも、神様がさばくとき、そのようなお金の支配から解放して、人々を自由にするとこの預言は教えています。私達はお金さえあえればなんでもできると考えてしまいやすいのですけども、【主】なる神様はそのお金の力さえも打ち砕いて、解放し、自由を与える。そのようなお方なのです。

　だから、みなさん、もし皆さんがお金に支配されているな。って思うところがあるならば、神様に祈って解放をもとめてください。神様に従うよりも、お金を稼ぐことを優先してしまうようなそのようなお金の支配を受けているのならば、【主】に

そこから解放されるように是非、祈っていただきたいと思います。

神様のご計画のもう一つの意図　【主】の聖なるものとなる）

　そして、このフェニキアの裁きに含まれているもう一つの意図は、「この経済的な支配者たちを、【主】に使える聖なる者へと変える」というものです。15 節から不思議な預言が書かれています。読んでみましょう。

23:15 その日になると、ツロは七十年の間忘れられる。一人の王の生涯ほどの期間である。七十年が終わると、ツロは遊女の歌のようになる。
23:16 「竪琴を取り、町を巡れ、忘れられた遊女よ。うまく弾け、もっと歌え。思い出してもらうために。」
23:17 七十年の終わりに、【主】はツロを顧みられる。彼女は再び遊女の報酬を得て、地のすべての王国と、地の面で淫行を行う。
23:18 その儲け、遊女の報酬は、【主】の聖なるものとなる。それは蓄えられず、積み立てられない。その儲けは、【主】の前に住む者たちが食べて満ち足り、上等の衣服を着るためのものとなるからだ。

　自分たちの力を高めるため、ひたすらに諸国と貿易をして経済力を高めて、諸国を支配しようとするそのフェニキアの商売の仕方は、遊女が色々な人と交わって自分のための蓄えを増やそうとしているように神様からは見えました。だから、神様はフェニキアをさばきました。しかし、神様は、七十年するともう一度、フェニキアはその遊女みたいな経済活動をすることができるようになるよ。とこの預言はいっています。
　ただ、裁かれる前と裁かれた後には違いがあります。何がちがうかというと、裁かれる前は、彼らはただただ自分のためだけに、その経済を蓄えていましたが、裁かれた後からは、かれらは、一生懸命、遊女みたいに諸国と貿易をして稼いだとしても、その儲けを蓄えることができず、その彼らが稼いだ儲けは、【主】のために聖なるものとして取り分けられ、【主】の前に住むものたち、つまり、神の民を支えるために用いられるようになる。と言われています。

これはフェニキアの生き方が大きく変えられるということを意味しています。今までは自分たちのためだけに稼いでいたのが、裁きの後は、【主】のためや、【主】の前で住む神の民たちのために稼ぐようになるということです。

みなさん、これがお金を稼ぐ本来の意味です。別にいっぱい献金をしろとかいっているわけではないのですが、ただ自分たちのためだけに稼ぐというのはお金に支配された生き方です。そうではなくって、【主】のためや、【主】の民たちのために稼いでいく。そして、お金に支配される生き方ではなくって、【主】が必要ならばお金を自由に手放して、それを【主】のための道具として使うことができる生き方。お金に支配されるのではなく、むしろ、お金を支配して、【主】のために人のために使える生き方、そのような生き方に変えてくださるというのが、今日のこのフェニキアに対する預言です。

まとめ）

みなさん、皆さんはお金がなければだめだ、経済的に豊かでなければいけないという思いにとらわれて、お金や経済に支配されていないでしょうか。また、それらによって高ぶっていたり、他の人を支配しようとしていたりしていないでしょうか。

【主】はそのようにお金に支配されて高ぶっている者を裁かれるお方です。でも、【主】のさばきはそれで終わらず、お金に支配されるものを解放し、蓄えることがすべての生き方ではなく、お金をちゃんと一つの道具として扱えるようになり、必要なら【主】のために手放し、必要ならば【主】の民のためにお金を使えるようにしてくださるのです。

みなさんにとってお金とはどのような存在でしょうか。みなさんを支配し、ただただ、自分のために蓄えることを目的にさせるようなものになっていないでしょうか。それとも、そんなお金の支配から開放されて、自由に手放せる。自由に使える。そんな一つの道具として扱えるようになっているのでしょうか。

もし、お金の支配、経済的な支配を感じるのならば、【主】がそれを打ち砕いて解放してくださるように祈りましょう。そして、【主】のためや、【主】の民のために自由にそれらを使えるようになっていきましょう。